

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四一号）

穀雨

四月二十日

神田下種祭

伊勢神宮の祭典に供える米を育てる専用の水田「神宮神田」。半月前の四月四日に苗代に蒔かれたもみ種は芽生え、伸びている頃です。

神宮神田は内宮を流れ下る五十鈴川の右岸、伊勢市楠部町にある3ヘクタールほどの水田です。五十鈴川の水を水田に引き入れ、祭典とともに稲作を行っています。まずは、種を下ろす、つまり昨年収穫されたもみ種を苗代に蒔く神田下種祭が執り行われます。

種蒔もよしや十日の雨のち

蕪村

江戸時代の俳人、与謝蕪村は、十日も雨が降れば、ちようど「種蒔」に良い頃と詠むなど、「種蒔」を季語とする俳句は多く見られます。

しかし、今では、数センチほどの育った早苗を農家が購入し、機械で田植えをしているため、水田にこしらえた苗代にもみ種を蒔く光景はほとんど見られません。伊勢神宮では祭典として古くから続いています。

神宮神田の中央の祭場田に設けられた祭壇には、鍬ともみ種を納めた器が供えられ、祝詞奏上のあと、山口剛作長が鍬を三回振り下ろす所作を行いました。そのあと、作業員が水を張った苗代に入り、もみ種をていねいに蒔きました。

神田下種祭の頃は春の天気が不安定なことが多く、今年も晴れてはいましたが、風が強く、風冷えの一日でした。それから半月後の穀雨は、雨が百穀を潤し、芽を出させるという意味があります。野山の芽を育む雨は、また神宮神田のもみ種の芽吹きをも促します。そして、来月五月上旬に田植えが行われます。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ おかげ横丁 端午の節句

5月5日は、奈良時代以前より続く古い行事「端午の節句」。

おかげ横丁では、勇ましい鎧や兜を飾り、鯉のぼりを立てて、子どもの健やかな成長や立身出世を願う「端午の節句」をお祝いします。

日 時／4月26日(土)～5月6日(火) 10:00～17:00 (催しによって異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

● 置へりを使った端午の飾り作り

日本の伝統的な色柄の「置へり」でオリジナルの節句飾りをつくります。

「タペストリー」または「置き型飾り」のいずれかをお選びいただけます。

日 時／4月26日(土)、4月27日(日) 10:00～16:00 (所要時間約30分)

場 所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

参加費／タペストリー1,200円(税込)、置き型飾り1,200円(税込)

※ご予約優先とさせていただきます。

● 鎧武者に大変身 (予約優先)

鎧と兜を身に付けて勇ましい武者姿に変身して記念撮影ができます。

男の子はもちろん女の子も参加できます。

日 時／4月26日(土)～5月6日(日) 10:00～17:00 (受付終了)

場 所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

参加費／1,200円(税込) (所要時間約30分)

● のきしょうぶ 軒菖蒲

家に邪気や災厄が入り込むのを防ぐために、強い香りで邪気を払う菖蒲や蓬などを束にして5月4日の夜に玄関の軒につるす風習があります。

おかげ横丁の各店の軒先に飾ります。

日 時／5月4日(日・祝)～5月4日(月・祝)

場 所／おかげ横丁一帯

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 伊勢神宮の三英傑～信長・秀吉・家康～

二十年毎に社殿を造り替え、御神体をお遷しする神宮の式年遷宮。それが戦国時代には、120年以上もの間途絶しました。この復興に一役買ったのが、織田信長で、彼の統一事業を引き継いだ豊臣秀吉により、天正十三年(1585)十月、両宮の式年遷宮が復興します。そして、次の式年遷宮を差配したのが、徳川家康でした。以上の歴史を、文献史料に基づきつつ、振り返って参りたいと思います。

日 時／4月22日(火) 13:30～15:00

講 師／多田 實道 (皇學館大学文学部国史学科教授)

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

やま
山

ぶき
吹

山吹が鮮やかな黄色の花をつける季節です。
日本原産で、万葉集にも詠まれるほど古くから親しまれています。
美しく咲く姿を、白餡を包んだ薯蕷饅頭に仕立てました。

しん
神

め
馬

神宮の神馬といえば、もとは皇室ゆかりの御料馬。
毎月、1日、11日、21日の三度、参道を通り正宮前でお参りします。
御紋入りの衣をまとい、厳かに進む神馬の出立ちを真っ白な道明寺とこし餡で表しました。

みず
水

も
藻

五十鈴川の岸辺から川面へ向け目をこらすと、日差しに照らされて
きらきらと水藻が揺らめく様子が見えます。
その光景を葛寒天と羊羹を使い、透き通るように表現しました。